



求む！ 大学生デザインコンペ

株式会社街づくり山口
タウンマネージャー青木 敬介

まちづくり会社とは

中心市街地のまちづくりを担うまちづくり会社は、地域密着型の企業性と
ともに、行政が出資する第三セクターとしての公益性を併せ持つものです。
地域密着型のディベロッパーとして、ハード、ソフトの両面から、
中心市街地の活性化に取り組んでいます。
広く市民を巻き込むという意味で、まちづくりあるいは収益事業による
利益は、地域に還元されることを目的としています。

タウンマネージャーより

1996年に設立された株式会社街づくり山口、約25年の歴史がありますが、中心市街地活性化において、十分に機能を発揮できていないのが現状です。

収益事業においては駐車場や施設の賃料収入がメインで収益性も低く、本来のまちづくりに関する収益事業はほぼ皆無であり、まちづくりにおける非収益事業においては

「マンパワーの不足」、「スキル・ノウハウの不足」、「資金・財源の不足」である。

今後これらの課題を解決し、まちづくり会社本来の姿を取り戻し、中心市街地活性化に力強く寄与するまちづくり会社になりたいと考えています。

チャレンジショップとは

山口市中心商店街の賑わい創出及び、こちらにおいて将来新規出店を目指す者を対象に、山口井筒屋前でチャレンジショップを設置し貸出する他、出店者が店舗経営のノウハウの習得を目指し、独立開業ができるよう支援するとともに、中心市街地の活性化を図ることを目的の事業です。

タウンマネージャーより

チャレンジショップは新たな空き店舗対策として始めました。

これからの空き店舗対策は商店街の魅力UP、すなわち魅力ある店舗の誘致が必要です。

山口県内で魅力ある商品開発をされている方々を発掘し、中心商店街の一番の集客スポットである山口井筒屋前に出店してもらうことで商品PR、売上に寄与し、良い関係性を持ち、将来的に商店街への出店と繋げ、中心商店街の魅力UPを図っていきたいと考えています。

空き店舗に掲載する看板デザインについて

タウンマネージャーより

この看板の制作を思いついたのは、商店街の空き店舗前にあるこの看板を見た時でした。

ただでさえシャッターが閉まっていてどんな店が分からないのに、こんなありきたりの看板で興味を持つ？

看板が面白い、それならこのシャッターの向こう側も面白い、この商店街も面白い、そんな連想をしてもらいたい、現在商店街の空き店舗28店舗前には7~8社の不動産屋の看板があります。

魅力ある空き店舗5物件をピックアップして、その空き店舗前に皆さんに考えてもらった、個性的な看板を設置します。

なぜ5ヶ所かというと、商店街を回遊してもらって、商店街をよく知ってもらいたいという目的もあるからです。

5か所回ると謎解きになるとか、全てを見たくなる仕掛けある看板デザインをお願いします。今後その5店舗は毎月第一日曜日にはシャッターを開けて、内覧できるようにもします。

